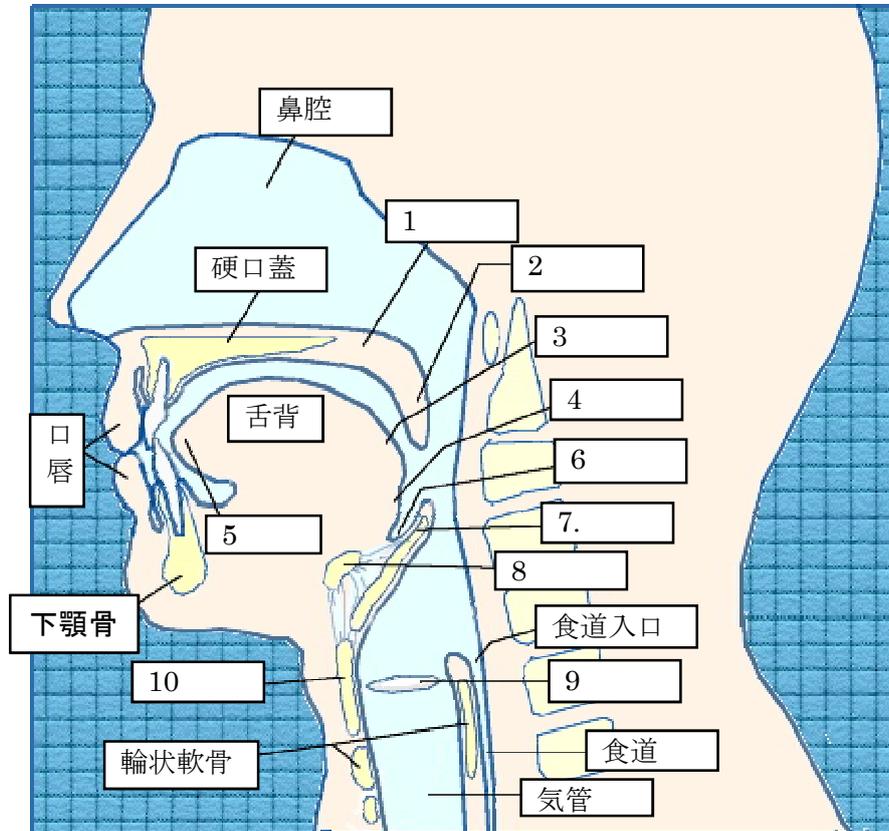


第1回 摂食・嚥下コーディネーター認定試験問題

問1. 顔面頭部(矢状断)の図に解剖学的名称を入れよ。



問2. 嚥下障害を疑う臨床所見について5つ述べよ。

問3. 嚥下運動における舌の機能を4つ説明せよ。

問4. 口腔ケアを積極的におこなうことで得られる効果を4つ述べよ。

問5. 口腔ケアをおこなう際に拒否がある、口を開けてくれないなどの症状がある場合の原因とその対処法を3つ述べよ。

問6. 口腔乾燥が強く、粘膜面に乾燥痂皮などがこびりついている場合の口腔ケアの注意点について4つ述べよ。

問7. 嚥下造影検査(VF)の目的を4つ述べよ。

問8. 摂食・嚥下障害患者が抱える特有のリスクを3つ挙げよ。

問9. 食塊の咽頭への送り込みに問題がある患者に適した食形態の特徴を5つ挙げよ。

問10. この症例の問題点を4つ挙げ、その対応策を述べよ。

80歳代 女性。主病名は、アルツハイマー型認知症。既往に、大腿骨頸部骨折がある。現在のADL状況は、食事動作を除き全てにおいて全介助レベル。1か月ほど前より徐々に食事摂取量が減り始め、体重も減少傾向にある。食事を配膳すると一つの皿にすべて混ぜてかき込んで食べようとしたり、隣の人のお食事に手を伸ばして食べようとされる為、優しく声かけして注意しているが、それをやめようとならない。かき込んで全て口に入ればよいが、こぼしの量が多く、衣服を常に汚してしまっている。あまり声をかけたりすると、逆に憤慨され食事を拒否してしまわれる。

問11. 以下の病態を持つ患者の摂食・嚥下時の障害について、適切な語句を下欄から選び、そのアルファベットを記入せよ。

- ・重症筋無力症患者が食事中に「鼻水をすする」行為がみられたら(1.)を疑ってみる。
- ・パーキンソン病患者の食事時間が長くなる要因のひとつに、咀嚼時の動作緩慢や(2.)の延長が挙げられる。
- ・筋萎縮性側索硬化症(ALS)患者の咬筋や舌筋萎縮により最も障害をうけるのは(3.)期や(4.)期である。
- ・アルツハイマー型認知症患者が食物に手を出さないのは(5.)期の障害と考えられる。

- a) 先行、 b) 口腔、 c) 咽頭、 d) 横隔膜痙攣(しゃっくり)、 e) 鼻咽腔閉鎖不全、
f) 吸気時間、 g) 嚥下反射時間

問12. ()の中に入れる適切な語句を下欄から選びそのアルファベットを記入せよ。

- ・パーキンソン病患者で摂食・嚥下障害を呈する場合の介助においては、(1.)を考慮し、ON相に介助すると楽である。
- ・重症筋無力症患者では筋の易疲労性があるので、食事に際しては途中で(2.)とよい。
- ・大脳皮質下白質や基底核の虚血性病変による嚥下障害は(3.)と言われる。
- ・一方、ALS患者の嚥下障害は延髄の障害で(4.)と呼ばれ、同時に(5.)を合併するので、ムセや痰喀出がより困難になる。

- a) 舞踏病様運動、 b) 呼吸筋麻痺、 c) 軽く体操する、 d) 症状の日内変動、 e) 球麻痺、
f) 運動失調、 g) 仮性球麻痺、 h) 休憩する、 i) 口輪筋麻痺、 j) すくみ現象

問13. この症例への間接的嚥下訓練としてどのようなプログラムを立てるか書きなさい.

70歳代 男性 脳梗塞 発症5日目

左不全片麻痺

JCS (Japan Coma Scale 意識障害レベル) I-1

簡単な指示命令には従える 構音は不明瞭

歯は上下合わせて5本の残歯有り 義歯使用 歯肉炎有り

改定水のみテストにてむせはあるがSpO₂の低下はなし

嚥下反射の惹起に遅延認められる

食事は主食二度炊き 副食刻みとろみつきを全量摂取 水分はとろみが必要

問14. 代償的嚥下法を3つ挙げよ。

問15. 嚥下第2期(咽頭期)にみられる現象はどれか。正しい組み合わせの番号を選択せよ.

- a.軟口蓋による鼻咽腔の閉鎖
- b.甲状咽頭筋の弛緩による食道入口部の開大
- c.食道の蠕動運動
- d.中咽頭の圧上昇
- e.喉頭の挙上および閉鎖

1).a、b、c 2.)a、b、e 3).a、d、e 4).b、c、d 5).c、d、e

問16. 嚥下訓練に適しているのはどれか。番号を選択せよ.

- 1.常食
- 2.水
- 3.お茶漬け
- 4.プリン
- 5.餅

映像問題

- 【症例:1】**
- ・87歳 女性
 - ・高血圧症、心不全、重症食道穿孔ヘルニア
 - ・肺炎の既往あり
 - ・飲水テストにてムセあるため絶飲食 IVH
 - ・自力で端座位は可能、立位は不可
 - ・認知症のため理解力は乏しい

1. この症例において認められる所見を選択せよ。(複数回答可)
 - a. 口腔残留
 - b. 喉頭蓋谷への残留
 - c. 梨状窩への残留
 - d. 鼻漏出
 - e. 逆流
 - f. 喉頭侵入
 - g. 誤嚥
 - h. ムセ
 - i. 特に異常は認められない
2. この患者に適すると考えられる食形態を選択せよ。
 - a. 液体
 - b. ペースト
 - c. ゼリー
 - d. きざみ
 - e. 経口摂取は困難

- 【症例:2】**
- ・70歳 女性
 - ・パーキンソン病 ヤール度 5
 - ・変形性脊椎症、両下肢筋廃用委縮、
 - ・嚥下障害、食事形態はミキサー食
 - ・意思疎通困難、ベッド上生活

1. この患者に最も適している食形態と姿勢の組み合わせを選択せよ。
 - a. 液体・座位
 - b. ペースト・座位
 - c. 液体・リクライニング
 - d. ゼリー・リクライニング

- 【症例:3】**
- ・77歳 男性
 - ・くも膜下出血術後(VPシャント造設)
 - ・右片麻痺、麻痺性構音障害、嚥下障害

1. VF及び下記食事状況の記載から、この患者への食事場面の調整として必要な項目を選択しなさい。(複数回答可)
 - ・車イス座位. 利き手交換にてカレースプーン使用. 自力摂取であるが口腔への取込みが困難.
 - ・食事時間は約50分. 時間内に摂取できなかった分は最終的に介助をおこなっている.
 - ・1回の嚥下に時間を要するが、嚥下反射は比較的良好.
 - ・食事中に口唇から液体の流出あり. また、食事中に頭を後ろへのけぞらせる様子がしばしば観察される.
 - ・食形態はミキサー食である.
 - a. イスに座らせる
 - b. 自助具の変更
 - c. 食形態をきざみ食にする
 - d. 介助食べにする
 - e. リクライニング位にする
 - f. ゼリー、ムース食にする
 - g. 経管栄養を検討する

長崎嚥下リハビリテーション研究会主催

第1回 摂食・嚥下コーディネーター
資格認定試験問題

平成21年 3月29日(日)

試験時間	10:00～12:00
------	-------------